

「桐生市教育センター」と大川美術館との連携について（新規）

令和7年1月から旧西中学校跡地にて供用開始された「桐生市教育センター」については、桐生市市政方針にもある「桐生独自の教育環境の確立」を具現化する桐生市の教育行政の拠点として機能されることを期待いたします。

すでに開設後、駐車場の開放を行い、桐生が岡動物園や遊園地、大川美術館利用者への便宜を図られていることに対し敬意を表するものであります。

明治21年に山田第一高等小学校として桐生の教育の先駆けとしての歴史を刻んできた地に開設された「桐生市教育センター」が、人材の育成はもちろん、全国でも類を見ない学園都市、教育文化都市の実現に大きな役割を果たされますことを期待し、次の提言を行うものであります。

1. 隣接する大川美術館との連携、芸術を通じた感性教育の拡充

桐生が誇る大川美術館と供用が始まった「桐生市教育センター」（以下、センターと表記）とは極めて至近な距離にあります。

現在、開放されているセンター駐車場に車を止め、大川美術館に行くには、駐車場東門を出て、坂道と階段を歩いて美術館入り口に至ります。しかし、急坂と急階段が連続し、高齢者や身体の不自由な方には極めて厳しいコースと言えます。

旧西中学校体育館があったセンター西側駐車場の敷地部分は大川美術館の直下に位置し、ここに連絡通路を設置すると美術館に至る最短のルートとなります。急傾斜地であり隣接して民間所有地があるなど実現には難しい問題が多いとは存じますが、なだらかなスロープやエスカレーターなどの設備も考慮していただき、その設置を強く要望するものであります。

さらに、センター内に大川美術館と連携した教育・学習の場を設置され、大川美術館の館長や学芸員等を講師に子どもたちを対象にしたワークショップ、美術セミナーなどの開催により、芸術や感性を育む教育による人材育成の一助としていただきたい。

桐生市からの回答

桐生市教育センターと大川美術館とを結ぶ連絡通路についてのご要望につきましては、ご案内のとおり両施設は距離的には至近であることから、移動方法を問わなければ設置については可能であると考えております。

しかしながら、実際には高低差が著しいことから、これを解消することは非常に困難な状況であります。

ご提案いただきましたスロープの設置案について検討したところ、両施設の高低差である約25mを解消するためには、公共施設で推奨されるスロープの勾配である1/15の角度のスロープを採用した場合、延長が350m以上も必要となるため、実現性は乏しいものとなります。

また、エスカレーターの設置につきましても、屋外の場合、風雨による影響も大きいこ

とから屋根付きの構造となるため、エスカレーターの整備費用が莫大なものとなることから、費用対効果等を考慮すると実現は難しいものと考えております。

そのため、直接的な連絡通路の実現には課題が多いものと考えておりますので、引き続きの検討とさせていただきます。

次に、教育センター内に大川美術館と連携した教育・学習の場の設置にかかるご要望につきましては、教育センター内での講座の実施や大川美術館の学芸員の方との連携などについて、今後、検討させていただけたらと考えておりますので、よろしく願いいたします。

[回答担当] 教育委員会教育総務課施設管理係